

4 研究部会 活動記録

[1] ユニバーサルデザイン研究会

活動概要	まちづくり・建物づくりの担い手である建築士として、ユニバーサルデザインの考え方を身につけ、仕事に活かし、地域へ普及させることを目的に、平成15年5月発足。年10回程度の定例会を開催し、平成24年に100回を突破。平成25年、発足から10年が経過した。
世話人	常俊桂子(H15～現在)
メンバー (H21以降)	網本伸子、岩井一枝、尾瀬くみ、鍵野洋子、木下功、木本和子、瀬戸口茂、高松範明、垂水百合子、常俊桂子、西原誠助、野崎瑠美、原田純子、日高俊二、寶谷勝馬、堀切勝美、毛利康人、八木景子、山田由紀、山本和代、横田佳史

ユニバーサルデザイン研究会活動一覧表(平成21年度～平成25年度)

年度	活動内容(回記載は定例研究会)		参加人数
H21	第62回	UD視点から探る「住み続けることが可能な住宅」の基本 まとめ作業	10
	63-64回	情報交換、今後研究会で取り組むテーマについて検討	12
	65-66回	9.2 加古川支部 UD 研修会(加古川支部との連携事業)準備～報告会	8
	67-72回	2-3月神戸市民対象セミナー準備～報告反省会	9
	研修会	加古川支部 UD 研修会講師(9月2日高砂市総合体育館会議室にて開催)	7
	体験学習	車いす体験学習(11月14日神戸学院大学有瀬キャンパスにて開催)	17
	セミナー	神戸市民対象セミナー講師(延べ8名、すまいるネットにて開催) ・第1回「安全な毎日を過ごす」(2月7日) ・第2回「家族やライフスタイルの変化に対応する」(2月21日) ・第3回「時代や身体の変化に対応する」(3月7日)	受講者数 22 25 22
H22	73-74回	「北野町」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	9
	75-77回	「有馬温泉街」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	11
	78-80回	「六甲山」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	11
	81-83回	「舞子公園周辺」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	13
	セミナー	尼崎市民対象セミナー講師(UD建築研究会との共催、講師延べ8名) 「建て替え知らずのマイホームづくり～住み続けるための工夫」 ・第1回(10月9日、尼崎市たちばなNPOプラザにて) ・第2回(10月23日、同上)	受講者数 15 15
H23	84-85回	「神戸市立王子動物園」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	12
	86-92回	「神戸市立須磨海浜水族園と周辺」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	13
	93回	高知 UD 検証見学会(高知駅、牧野植物園他を高知県女性委員会の案内で巡る)	10
	研修会	「木造住宅と車いすの関係性に着目した住環境整備指標の構築他」(UD建築研究会主催) 講師: 県立福祉のまちづくり研究所室崎千恵氏(7月23日すまいるネットにて)	15
H24	94-100回	「神戸市立須磨海浜水族園と周辺」UD 検証続き(現地検証追加1回と報告・検討・まとめ) 後日、まとめたものを神戸市都市計画総局計画部まちのデザイン室に提出	12
	101-102回	高齢者(要介護者)住宅の課題の掘り起し	10
H25	103-104回	高齢者(要介護者)住宅の課題の掘り起し	10
	105-106回	ひょうご県民ユニバーサル施設認定施設「キリンピアパーク神戸」UD 検証(現地検証1回と報告・検討会)	9
	研修会	「デザインや色に配慮したカラーUDを考える」(UD建築研究会との共催)講師: 県立福祉のまちづくり研究所北川博巳氏(7月27日私学会館にて)	14
	107回	最新のショールームで内装材・設備等のUD的工夫を探す (梅田 TDY、LIXIL ショールーム大阪、パナソニックセンター大阪リビングフロア)	9
	108-109回	「高齢者・障害者の居宅サービスの受給に適した住宅の事例調査」報告書の検討	6
	活動発表	全国女性建築士連絡協議会(全建女)にて当研究会の活動を発表(7月13日東京、発表常俊)	

ユニバーサルデザイン研究会の活動ピックアップ

◆ 住宅づくりの冊子を使っの研修会・セミナー

これから住宅を建てるという方、住宅の計画・施工に関わる専門家などに役立てていただこうと、平成 21 年 3 月に発行した冊子「ユニバーサルデザインの視点から探る」住み続けることが可能な住宅“の基本”を使っの加古川・神戸・尼崎での研修会・セミナーにおいて、当研究会メンバーが講師を務めました。



平成 21 年 9 月
兵庫県建築士会加古川支部 UD 研修会
(高砂市総合体育館会議室にて)



平成 22 年 2-3 月
神戸市民対象 UD セミナー
(すまいるネットにて)



平成 22 年 10 月
尼崎市民対象 UD セミナー
(たちばな NPO プラザにて)

UD 研究会で作成した冊子の特徴

愛着が持てて長く住み続けられる住宅づくりには耐久性 耐震性などは欠かせない要素であるが、さらに、家族構成の変化 家族の心身状態の変化・ライフスタイルの変化といった、住まい手のニーズの変化に対応でき、誰もが健康で快適に暮らすことができる住宅をつくり維持していくことに留意した住宅計画の基本的要件をまとめた。

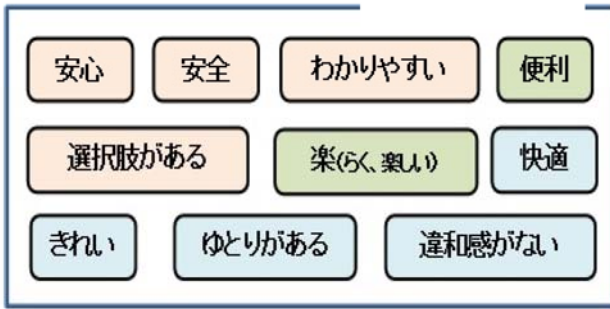
◆ 車いす体験学習

平成 21 年 9 月、神戸学院大学総合リハビリテーション学科 糟谷佐紀先生のご協力を得て、同大学有瀬キャンパスにて様々な車いすの特徴を学んだ後、実際に各種車いすに乗り替えながら動作を確認し、車いす介助法などもおそわりました。



◆まち(観光地)のUD検証

誰にとっても



- 第1回 北野町異人館街
- 第2回 有馬温泉街
- 第3回 六甲山
- 第4回 舞子公園
- 第5回 王子動物園
- 第6回 須磨海浜水族園

当研究会が考えた上記キーワードに基づき、平成22年から各地のUD検証をしました。



北野町の五か国語表記の案内 (^_^)



六甲山の119番通報プレート (^_^)



坂の街
有馬、北野 (>_<)



六甲ケーブル山上駅 (>_<)



王子動物園 反対側にスロープがあるのだけれど見えない (>_<)



須磨 道路の交差部が色付けされている (^_^)



絵入りの案内は、子供にもわかる (^_^)



水族館の床の順路案内 (^_^)



手に触れられる生き物や、レプリカ展示もある (^_^)

自治体等と連携しての活動ピックアップ

平成 19 年 4 月、より幅広い実践活動を行うため「ユニバーサルデザイン建築研究会」を別に発足させ、継続的に研究活動しているユニバーサルデザイン研究会と連携しての活動を開始しました。県内ユニバーサル社会づくり推進地区 11 か所でのバリアフリーマップ作りのための現地調査指導、まち歩きなどで、車いす利用者・視覚障がい者などと共に UD 検証する機会が増え、兵庫県福祉のまちづくりアドバイザーにも多くのメンバーが登録し、活動しています。

◆「バリアフリーマップづくり」のための現地調査指導

平成 22 年 9 月～23 年 1 月、兵庫県内のユニバーサル社会づくり推進地区 11 か所（北は豊岡、南は淡路島）に、メンバー二人ずつが出向き、地区の人々と一緒にまち歩きをし、現地調査員には、着目するポイントや書類・図面の作成の仕方などを指導しました。



◆兵庫県「福祉のまちづくりアドバイザー」

急速な高齢化に対応し、施設のバリアフリー化を進めるため、県は兵庫県福祉のまちづくり条例に基づき「ひょうご県民ユニバーサル施設」を認定し始めました。申請された施設を、ハード面だけでなく管理運営などのソフト面も含めて利用者の目線で点検・助言するのが福祉のまちづくりアドバイザーで、平成 24 年からアドバイザー登録が始まりました。



◆兵庫県立福祉のまちづくり研究所の調査に協力

平成 24 年から、車いす利用者・視覚障がい者などと共に、近畿の小規模店舗バリアフリー検証調査に協力しています。



◆神戸市「UD ええとこ見つけ隊」サポーター

平成 25 年 3 月から、車いす利用者、視覚・聴覚障がい者などと共に、市内各地（須磨海浜水族園、神戸ハーバーランド、東灘図書館など）の UD 取材に協力しています。

◆地域のまちづくり協議会主催のまち歩きに参加

地域住民と共にまち歩きし、UD の視点でまちを検証しています。



[2] 木構造・木造住宅研究会

活動概要	主に木造住宅の構造に関するテーマで、話し合いたいことや、講義を聴いて勉強会がしたいことなどを、メンバーに提案してもらって、進めてきました。特に「2×4」について3回シリーズや省エネセミナー4回シリーズでは会員外の建築士も多く集まりました。
世話人	東影 みどり
メンバー	メンバー登録15名

月日		活動内容	参加人数
H21.4.23	第 32 回	木造に於ける限界耐力法について、構造建築士が構造セミナーで聞いた興味深い話について等の座談会	7
5.29	第 33 回	(株)合掌 原田量治氏考案の「斜め格子の耐力壁について」田中嘉之氏の講師による勉強会	6
6.26	第 34 回	今後のテーマについての話し合い	6
9.11	第 35 回	テーマ「構造の要素」、講師「(株)合掌 原田量治氏」勉強会	12
10.14	第 36 回	テーマ「2×4 基準を活かした強い木造住宅の作り方—第1回—」講師「西原誠助氏」勉強会	10
11.27	第 37 回	テーマ「2×4 基準を活かした強い木造住宅の作り方—第2回—」講師「西原誠助氏」勉強会	17
H22.1.08	第 38 回	テーマ「2×4 基準を活かした強い木造住宅の作り方—第3回—」講師「西原誠助氏」勉強会	15
2.09	第 39 回	テーマ「防災と非難の基礎知識」、講師「西原誠助氏」勉強会	13
4.20	第 40 回	「実践！我が家の防災対策<いざというときの行動編>」講師：西原誠助氏	6
6.15	第 41 回	見学会「篠山左官ミュージアム」建物、各種左官仕上げ、道具の見学。建物の提案者久住章氏自邸(同じ構造)も見学。案内説明：南俊之氏	6
10.29	第 42 回	工務店に寄せられるクレーム、その他情報交換	8
12.18	第 43 回	見学会「(株)ディープランヨネザワショールーム」D ボルトの説明	4
H23.3.10	第 44 回	「最近関わった建物の構造について」混構造の実例紹介。講師：田中嘉之氏	6
7.08	第 45 回	木構造研のこれからの方向性と在り方について 研究会の世話人会で、木構造研でもテーマに基づいたことを、もっと掘り下げていくような活動を期待したいという提案をいただいたので、今回は、「これからの方向性について」という議題で開催しました。	5
11.29	第 46 回	木構造研の次のテーマ ■ 子供園(徳島県脇町の幼稚園+保育所)田中氏の携わる物件の見学会をする。 ■ 省エネ基準について。性能規定と仕様規定があるが、仕様規定について、西原氏にレクチャーしてもらう。	9
H24.2.01	第 47 回	見学会：脇町こども園木造軸組み見学会	7
3.16	第 48 回	誰でもわかる省エネセミナー ～必見！確認申請にかかる省エネ措置の届出克服～全4回シリーズ	31 メンバー8
3.30	第 49 回	講師：研究会メンバー 西原 誠助 氏	
4.13	第 50 回	個人住宅を主にしている設計者や工務店が、いざという時にあわてないように勉強会を企画したが、メンバー以外の建築士も参加できる拡大セミナーとした。講義の中には、演習の時間や書類作りのコツ伝授も組み込まれている。	
4.27	第 51 回		
9.17	第 52 回	木構造研メンバーの設計した住宅の建設中の木構造現場見学会	9
12.15	第 53 回	軸組みの時と、完成の時の計2回	
H25 9.07	第 54 回	つよい木造住宅の作り方セミナー 講師：合掌 原田 量治 氏 研究会メンバー 西原 誠助 氏 場所：西宮市勤労会館 4階 第7会議室 2×4と在来木造の良い所を合わせ持つ強い住宅の作り方を伝授してもらった。以前にも開催した2×4のセミナーの進化版。	17 メンバー3

月日	活動内容		参加人数
H22 6.15	第 41 回 見学会「篠山 左官ミュージ アム」	 	6 名
12.18	第 43 回 見学会「㈱デ ィープランヨネ ザワショール ームJD ボルト の説明	 	4 名
H23 02.01	第 47 回 見学会：脇町 こども園木造 軸組み見学 会	 	7 名
04.13 04.27	第 50 回 第 51 回 誰でもわかる 省エネ セミナー	～必見！確認申請にかかる省エネ措置の届出克服～全4回シリーズ  	第 50 回 27 名 第 51 回 25 名
09.17	第 52 回 神戸市灘区 木造住宅 構造見学会	 	9 名
H25 09.07	第 54 回 つよい木造住 宅の作り方セ ミナー	 	17 名 メンバー3名

[3] よろず建築文化研究会

活動概要	建築士の実務に直接的には反映されないかもしれないが、発想のヒントや自由な展開を得るきっかけとなるような活動をめざし平成18年に発足。研究対象は無限大。好奇心旺盛で、積極的に参加し汗を流して楽しめる方々と不定期に活動しています。		
世話人	澤木久美子、正木恵子、尾瀬くみ		
メンバー	登録メンバー 12名		
年度	月日	活動内容	参加人数
H22	5.11	第5回 「川柳ことはじめ」～田村ひろ子さんを囲んで～	7名
H23	6.15	第6回 ～おいしい企画 vol.1～「よろず洋菓子研究の会」	9名
H24	12.5	第7回 ～おいしい企画 vol.2～「森のアトリエでごはんの会」	7名
H25	8.7	第8回 伝統芸能「能」の魅力 ～建築的アプローチを深めるために～	8名

第5回 「川柳ことはじめ」～田村ひろ子さんを囲んで～



上屋の広々した空間の中で手ほどきを受ける

川柳作家の田村ひろ子さんをお招きして、「川柳ことはじめ」と題してお話を頂き、実際に川柳を作ることを体験した。

初めは緊張しながら、恥ずかしさもあってなかなかペンが動かなかった参加者も、田村さんのやさしい手ほどきに心を動かされ、気づけばとても素直な気持ちで、心の奥深くからの言葉を見つけて表現することができたように思う。

港の中にある「Q2 上屋」での開催は、開放的な窓から海を眺められるいつもと違った空間の中で、気持ちも転換でき、川柳という文化に触れながら、心のセラピーを受けたような気持ちになったことは、不思議な体験だった。

港の中にある「Q2 上屋」で



田村さんを囲んで記念撮影

第6回 ～おいしい企画 vol.1～「よろず洋菓子研究の会」

神戸にぴったりのテーマ「よろず洋菓子研究の会」を開催。神戸洋菓子ボックス オーナーパティシエの福原敏晃さんに、ボックス三宮店の2階を貸切で提供して頂き、洋菓子に対する想い、「ものづくり」への姿勢などのお話を伺った。

「良い材料で良いものをつくることに情熱を注ぎ、お菓子を作っているとき幸せを感じます。この仕事に巡り合えたことは、両親のおかげであり家族に心から感謝しています。」という福原さんの言葉からは、とても誠実なお人柄通りのあたたかさがお菓子に現れていること

の理由が伝わってきた。先代から受け継いだ伝統を守りながら、時代にあった新しい考え方にも積極的に挑戦する意気込みや、美味しさと美しさを探求する日々の努力は、同じ「ものづくり」をする立場から見習うべきものを感じ





取ることができたのではないかと思います。

この日のために用意して下さった特別なケーキプレートとお茶を頂きながら大変素敵な“おいしい時間”を過ごすことが出来た。

ひとつひとつの質問に丁寧に答えいただく

第7回 ～おいしい企画 vol.2～「森のアトリエでごはんの会」

2月に竣工したよろず研世話人でもある澤木さんの事務所兼自宅「森のアトリエ」で開催。省エネに配慮された住まいの中で、窓外の名残りの紅葉を楽しみながら、竣工後半年間の省エネ住宅での暮らしの実感や、具体的な設計手法の話をしてもらった。



森のアトリエ・外観

省エネルギーに対する関心が高まる中、設計者としてもその技術的な知識や、法的基準の把握が必須となってきている。ただその数値的な部分をクリアしたとしても、実際にそのような基準で建てられた住まいが、どのような住み心地となるかは、実際に体感してみれば一層理解が深まる。そこで今回の開催となったが、テーマは実践的なものながら、開催方法はあくまでよろず研らしく、お昼の“おいしい”お弁当を頂きながら、楽しい勉強会となった。後半は恒例の参加者各々の関心事や話題を順次発表して、情報交換をした。



昼食のテーブルを囲みながら

第8回 伝統芸能「能」の魅力 ～建築的アプローチを深めるために～

女性委員会 30 周年の企画テーマ「能」のセミナーを前に、普段触れることの少ない能について事前勉強する事で、より理解が深められたら、と今回の企画となった。メンバーの杉本さんが能の仕舞を学んでおられる経験を生かしてレクチャーして下さい、能全般の基本的なことや、能舞台の基本・少し変わった舞台について等々お話しいただいた。実際に使われる舞扇なども用意していただき、動画を見ながら細かな解説も聞かせていただいた。

「能」の初心者としては、聞きにくいことも気軽に質問させていただくことで、より身近なものとして感じる事ができたのではないかと思います。

前回に続き、会場は世話人澤木さんの森のアトリエで行われ、今回は省エネ住宅の夏に、エアコン無しの状態での程度の暑さになるか、を実感することとなった。



貴重なDVDを拝見しながら解説を受ける

よろず建築文化研究会では、このように興味を持ったことは何でも、見るだけでなく、聞いて、手を動かして、食べて、実感して、吸収できる研究会として活動している。

[4] 見学研究会

設立経緯	単発開催。興味のある建築や施設を見学する
世話人	尾瀬・和田・杉本(第3回～第7回) 尾瀬・杉本(第8回)

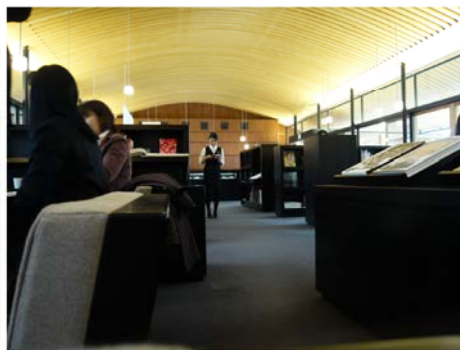
見学研究会活動一覧表(平成21年度～平成25年度)				
年度	月日	回数	内容	参加人数
H21	3.06	第3回	京都烏丸に建つ内藤廣氏設計の虎屋京都店を見学。愛知県女性部会との交流会も同日に行い、その後、合同で見学会を行った。	18
H22	2.19	第4回	京都洛北にて現代建築と古建築を同日にじっくり見学する企画。京都工芸繊維大学の竣工間もない建築作品を設計者の説明で見学した後、名利 曼殊院に移動して、江戸後期の代表的書院建築と庭園を見学した。	15
H23	11.24	第5回	世界遺産である姫路城の修理工事現場を、姫路市城周辺整備室の担当者案内により見学。	10
	2.01	第6回	築十年の芦屋の個人住宅見学。設計者であるMs建築設計事務所の三澤康彦氏に、現場で当時の設計手法を解説していただき、施主であるH氏には、10年間の家の住み心地や率直な感想などを聞くことができた	9
H24	2.09	第7回	女性委員会30周年記念企画として、ユニバーサル建築研究会と共催でリニューアル工事が完了した阪神甲子園球場の見学会を開催した。	40
H25	6.25	第8回	女性委員会30周年記念企画として、女性部会と共催で、高砂神社で建築中の能舞台の工事現場を見学し、併せて、江戸時代に姫路藩より計画的なまちづくりが行われ、近代以降、産業都市として発展した高砂の堀川周辺のまち歩きを行った。	25

第3回 虎屋京都店 見学

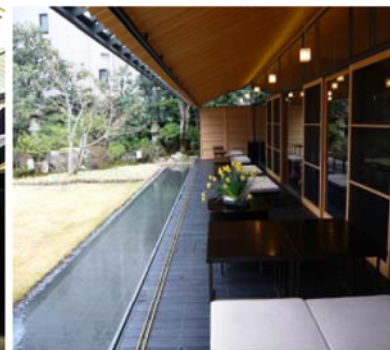
内藤廣氏設計の虎屋京都店で、愛知建築士会女性部会と兵庫県建築士会女性委員会の交流会と見学会を開催。女性委員会OBも出席し、それぞれの女性委員会(愛知は部会)が現在の組織形態に至るまでの問題や経緯などを新旧の組織図や記録等を参照しながら情報交換を行った。その後、ギャラリーで虎屋文化事業部の担当者から虎屋の歴史とリニューアルにまつわるお話をお聞きしたあと、敷地内を廻りながら、新築された建物の外観と庭、路地、保存された稲荷社、改修された東蔵などを見学した。見学会終了後には、参加者全員がそれぞれに菓寮で空間と茶菓を楽しみ、同じく内藤廣氏の設計で改築され2009年に開業した「虎屋一条店」を見学しながら買い物する姿も多く見られた。



虎屋京都店エントランス前で集合写真



虎屋菓寮内部



虎屋菓寮 中庭を臨むテラス席

第4回 洛北の新旧建築を訪ねる-京都工芸繊維大学60周年記念施設3棟+曼殊院門跡

・京都工芸繊維大学60周年記念会館 設計者の木村博昭氏の案内で見学。キャンパス計画に既存校舎・既存樹木を残し、1階記念ホールは外部道路側からも使用可能な学外に開かれた施設として計画されている。大学と地域の関係性、既存校舎との調和、デザインや構造の提案、教材としての家具の価値観、建築を学ぶ大学の現代の施設設計はどうあるべきか、等様々な課題への取り組みを聞いた。

・京都工芸繊維大学 食堂(岸和朗氏設計) : 食堂、ブックショップ、売店を配する学生生活の拠点となる施設。自分達の学生時代と比較しつつ、昼食を兼ねて自由に時間を過ごした。

・京都工芸繊維大学 同窓会パビリオン: 設計者の角田暁治氏の案内で見学。比叡山へのシークエンスを意識したアプローチを辿り、モノコック構造を実現した経緯やこだわりに耳を傾けた。



京都工芸繊維大学 60周年記念館



京都工芸繊維大学 食堂



京都工芸繊維大学 同窓会パビリオン



曼殊院門跡 大書院から見る遠州好みの枯山水

・曼殊院門跡：少人数に分かれて順番に重要文化財の八窓の茶室内部に入り、僧の説明を受けた。3畳台目の茶室は、下地窓・突き上げ窓など8つの窓があり、室内の採光と通風のみならず壁面の意匠ともなり、下地窓は室内に微妙な明暗の分布を作り出す。春の気配が漂う枯山水の庭園を鑑賞しながら、古の時代へと思いを馳せた。

第5回 姫路城修理工事現場見学

姫路城の大天守修理工事現場を姫路市城周辺整備室の担当者案内により見学。既存の瓦をすべて撤去し、外壁の漆喰の新しい下地を施工している段階を見学することができた。伝統を活かしながら、新たな材料を試行するなど技術的な取り組みや、工事そのものを見学者に公開する姿勢など、公共財としての文化財修理の在り方について考え、学ぶ機会となった。

姫路城大天守修理見学施設にて
集合写真



第6回 芦屋市H邸見学

Ms建築設計事務所が10年前に設計した芦屋の住宅を見学。設計者である三澤康彦氏に、現場で当時の設計手法を解説していただき、さらには、最新の作品や新しい技術への取り組みの様子などを聞いた。施主であるH氏には、10年間の家の住み心地や率直な感想などを聞くことができた。設計実務に携わる参加者にとって、ハード、ソフトの両面ともに刺激される非常に有意義な見学会となった。

H邸ダイニングにて三澤氏の説明を聞く



※第7回、第8回は、共催のため詳細略

[5] 家族と住まい方研究会

設立経緯と活動概要	<p>家族生活の器としての住まいは時代と共に変化してきたが、家族の形もまた変化し多様化している現在、家族と住まいのかかわりを、いろいろな角度から探りたいと、平成15年7月に発足した。当初は、昔の日本の住まい方から現代への変遷の確認、間取りの収集、nLDK形式の検証、住空間と子どもの関係等の問題を取りあげた。</p> <p>その中で子ども部屋の使われ方に疑問を持ったことから、子どもと住まいの関係についてのアンケート調査を実施し、家族のかかわり合いと子ども部屋の現状を分析した。その結果、子ども部屋の目的と役割は子どもの成長段階(小学生と中学生以上)で変化する、子ども部屋の管理の仕方では親子の自立が図られる、集まり部屋で行われる家族だんらんの中心は食を共にすることである等の実態をまとめ、冊子「子どもと家族の住まい方」を作成した。また、子ども部屋のあり方について、市民向けのワークショップも行った。</p> <p>その後、書籍や雑誌、新聞記事などの情報を持ちより、血縁に頼らないコレクティブな住まい方の事例や最近増加している単身者や高齢者の住まい方の実態を学び話し合った。</p> <p>平成21年度以降、子どもたちに伝えたい本「くうねるところにすむところ」シリーズで、多くの建築家の著書を検証した。また、阿佐ヶ谷住宅などの古い集合住宅の再生についての資料を検証すると共に、堺市の集合住宅の再生実証試験のモデルを見学した。</p> <p>家族と住まい方に視点を置き、より快適に生活するための空間を多方面から追求し続けた研究会活動であった。平成25年3月末に10年間の活動を閉じた。</p>
歴代世話人	浜谷富美子(H15~H17) 松岡理香(H18) 岩井一枝(H19~H25)
メンバー(通算)	岩井一枝、尾瀬くみ、鈴木洋子、高田初美、田中八重子、垂水百合子、常俊桂子、西松佐由理、浜谷富美子、日高俊二、平内節子、松岡理香、山本和代、横田佳史、和田圭子

<研究会活動(平成21年度~平成25年度)で取り上げた書籍一覧表>

「子ども部屋の使われ方に関するアンケート調査」終了後、書籍、新聞、雑誌より、様々な角度から現在の住まい方を探求してきました。

書籍名	作者	発行所
「日本の住宅」という実験 風土をデザインした藤井厚二	小泉和子	農文協
「心の住む家」家とインテリアの心理学	友田博通	理工図書
くうねるところにすむところ>シリーズ「家族を作った家」	芦原太郎	インデックス・コミュニケーションズ
「space」狭小住宅 日本の解決法	マイケル・フリーマン	河出書房新社
くうねるところにすむところ>シリーズ「みちの家」	伊東豊雄	インデックス・コミュニケーションズ
くうねるところにすむところ>シリーズ「家ってなんだろう」	益子義弘	インデックス・コミュニケーションズ
くうねるところにすむところ>シリーズ「物語のある家」	妹島和世	インデックス・コミュニケーションズ
奇跡の団地 阿佐ヶ谷住宅	三浦 展	インデックス・コミュニケーションズ
くうねるところにすむところ>シリーズ「地球と生きる家」	野沢正光	インデックス・コミュニケーションズ
くうねるところにすむところ>シリーズ「まちを生きる家」	石田敏明	インデックス・コミュニケーションズ
まちに森をつくって住む 環境共生をかんがえた家づくり	甲斐敏郎	農文協
子どもを事故と犯罪から守る環境と地域づくり	野村 歓	中央法規出版
家族と住まない家 血縁から暮らし縁	島村八重子・寺田和代	春秋社
同潤会大塚女子アパートメントハウスが語る	女性と住まい研究会編	ドメス出版

その他

- 「建築と社会」日本建築協会 ●「建築とまちづくり」新建築家技術集団 ●「住宅会議」
- 「建築士」 ●「日経アーキテクチャー」 ●「チルチンびと」 ●各種 新聞 などと取りあげた

<家族と住まい方研究会でとりあげた書籍の紹介>

書籍の概略をご紹介します。

<p>●『「日本の住宅」という実験 風土をデザインした藤井厚二』小泉和子 著</p> 	<p>1920年代(大正末期～昭和初期)、エコロジカルな実験住宅を繰り返し試し、これから必要な日本の住宅を追求した建築家・藤井厚二。西洋化一辺倒の時代思潮のなかで、日本の風土に立脚し日本の風俗習慣に基づく住宅をどうつくるか、畳と椅子との空間をどう融合できるか、日本の自然素材をいかに取り入れるか、これらの環境共生手法や建築環境工学の先駆的研究は、現代住宅の課題として、今なお新しい。以前、見学する機会があった大山崎の実験住宅「聴竹居」のデザインはシンプルで美しかったことを思い出しながら、聴竹居で実践されている住まい方の様々な工夫が、現代の住まいで定着したか、しなかったかなど議論し検証した。</p>
<p>●『心の住む家～家とインテリアの心理学～』友田博通 著</p> 	<p>人間の心を重視する「心の住む家」は人間に対する理解を深め、それを住宅の設計に反映させた家である。人間と人間の心理、人間と空間の心理、家に関わる深層心理、表層現象を扱った流行心理と、家とインテリアに関して様々な角度からの心理について検討し、その視点と具体例を示そうとしている。今回「家族の成長と住宅」をとりあげた。集合住宅は基本“公私分離型”と“Lホール型(リビングから個室にはいり出す型)”があり、調査によれば、子どもが小さいと後者の方が主婦は行動しやすく、コミュニケーションもとりやすい。気に入った場所の1位は、明るく広い居間である。これらは我々の研究会で行った「子どもと家族の住まい方」アンケート調査結果と同じであった。</p>
<p>● くらねるところにすむところ 04『家族をつくった家』 芦原太郎 著</p> 	<p>建築家芦原義信氏の自邸とそこでの家族の変遷についての記録。1歳から両親と姉の家族4人で暮らし始めた長男の太郎氏にとって、この家は自分自身の成長の舞台でもあり、生活の楽しみ方を学び、家族だけでなく集まって来る人々との交流など社会との接点でもあったことが、家の変化(増改築)から読みとれる。「家はシンボルでも見せかけでもない。家族の生活のあり様が大切であり、それが家族の方針となり次に繋がってゆく」という著者の言葉を、住宅を造る立場の者は胸に刻みたいものである</p>
<p>●『スペース 狭小住宅:日本の解決法』 マイケル・フリーマン著</p> 	<p>「サイズを限定する必要はない、超過密な日本において、コンパクトに暮らす芸術的な技が、伝統を超えてモダンに磨き上げられてきている。制限された空間や形は、家のデザインにおいて、困惑の種というよりインスピレーションの源なのだ。」とマイケル・フリーマンは述べている。写真家の視点から光の活用法、開放感、視覚的な調和による想像力に富んだデザインで、独創的で驚くべき結果を生み出している日本の狭小住宅を賞賛している。今回は三山真武氏設計の「ロフト活用の家」をとりあげた。イラストレーターの自宅兼仕事場。梯子で上る仕事場は屋根裏でガラスをふんだんに使い風通しもよく、コンパクトでも圧迫感を感じさせないデザインである。他にも、「9坪ハウス」など狭いながらも独創的なデザインの住宅が掲載されており、小さな住宅にはいろいろと参考になる</p>
<p>● くらねるところにすむところ 08『みちの家』 伊東豊雄 著</p> 	<p>みちには車が走るみち、人が歩くみち、空気を通るみち、体の中の血液や食べ物が通るみちなどたくさんある。既成観念にとらわれない漠然とした、未知の中から、空間のとらえ方を見つけ出させようとしている。迷いこんだら、どんな世界になるかをワクワクしながら、創造の世界に迷い込むような語りの本。最後に「家をつくることは、まだ見えてないみちを切り開くことです。ドアを開けたら、あなただけみちをつくり、あなただけのみちをデザインできるのです」とこどもたちに希望をもたせている</p>
<p>●くらねるところにすむところ 01『家ってなんだろう』 益子義弘 著</p> 	<p>家の原点は、人が安心して集い暮らせる場所である。その家の形は、日本では昔から身近にある木を用いて気候風土に適した開放的な空間としてつくり、そこで営まれる暮らしでは、住むためのルールや智慧が育まれてきた。しかし、今の時代の家づくりでは、外に対して閉鎖的になり、部屋も閉じられたつくり方が多くなってきている。改めて家について考える時、時代や環境が変わっても、昔からの家づくりの知恵から学ぶことが多いことに気づかされる。また、家はしっかりした空間の骨組みをつくれれば、その後の家族の生活と共に徐々に充実し、完成されていくものであるとの著者のメッセージは、紹介されている自邸の変化の経緯から読み取れて興味深い</p>
<p>● くらねるところにすむところ 06『物語のある家』 妹島和世 著</p> 	<p>梅の林を活かした土地に建てる、3世代5人の家族のための家づくり。大きな家でみんな一緒に生活をという考えから、家族それぞれの大切な物のための小さな部屋をたくさんつくり18の部屋をつくることに。それぞれの部屋はとても小さいけれど、他の部屋が見えたり、気配がわかる窓がたくさんあり、つながっている。妹島さんの設計では小さな住宅ほど家族構成の変化や時間の経過が家の使い方に直接大きな変化を与えるので、少し自由に余裕を持たせてルーズにしておくとのこと。一人になったり一緒にいたり、いつもどこからか家族の声や物音が聞こえる家が、今後家族の成長によってどう変わってゆくのだろうか楽しみである</p>

●『奇跡の団地阿佐ヶ谷住宅』 三浦展編著 大月敏雄、志岐裕一、松本真澄著	
	平成 21 年建て替えが決まった阿佐ヶ谷団地は、昭和 33 年日本住宅公団が建てた総戸数 350 戸の団地。232 戸が 2 階建のテラスハウスで、その配置や緑豊かなコモンスペースが田園都市レッチワースを思わせる団地。なぜこの魅力的な団地が生まれ育ったのか、設計者側、居住者側から検証している。昭和 35 年以降団地の大量建設に方向転換してしまった住宅公団であるが、初期の技師たちは既存の風土と共存することから計画をスタートしていることもわかり、これは大規模開発の本来の姿勢でないかと思われる。また、入居者の住戸や環境への愛着の深さが豊かな住環境につながっていることも改めてうかがえる。消えてしまうこの団地一目見たかった……
● ぐうねるところにすむところ 07 『地球と生きる家』 野沢正光 著	
	劇場は地球村、舞台は自然・建物、シナリオは社会のしくみ。その中で繰り広げられる暮らしが少しでもよいものになっていくように、少しずつ変えていくのは人間自身である。家をつくる材料のこと、環境のこと、エネルギーを上手に使い、効率よく生活することで、地球全体が豊かになることを伝える書である。地球環境が変わりつつある今、気候風土にあわせ機械を使わない仕掛けや暮らし方を工夫したい
● ぐうねるところにすむところ 24 『まちを生きる家』 石田敏明 著	
	舞台は東京。まち中の限られた土地に 5 階建ての家を設計し、3 世代で住み始めた著者の家づくりとその後の 10 年を子ども(高校一年生)の目線からたどる物語。まち中の家は居住スペースを上積み重ねざるをえないが、公園側の面には自然やまちの様子を取り込む大きな窓が設けられている。さらに、ボール遊びのできる空中の中庭、中庭を挟んだ和室の離れ、光が入り空の動きを映すガラスの屋根等、様々の工夫がなされている。まちに向かって開き、都市の環境の変化を十分に考えた計画がなされていれば、家は数世代にわたり受け継がれていくという。快適に住み続けられる都市住宅はいかにするか、数多くのヒントを参考にしたい
●『まちに森をつくって住む』 甲斐哲郎・チームネット 著	
	この本は建築的な視点で語られることの多い環境共生住宅をマーケティング視点から、その実践と普及の方法論を提案し、住まいづくりと街づくりを結びつけることを紹介している。当研究会では第 1 章の街に森をつくる意味、第 2 章の森をつくる住まいづくりを実践する手法を検証した。緑が街に与える効用や 3 つの実例から緑と緑の中間領域による景観と空気質の取り入れについて紹介されている。夏は遮熱夜間換気による冷気と蓄冷から日中の外部との温度差 5~7℃を実現し、エアコンに頼らない暮らし。一方、冬は複層ガラス、断熱ブラインド、深夜電力を使った蓄熱暖房機の設置などで、自然の暖かさを最大限利用する方法を議論した
●『子どもを事故と犯罪から守る環境と地域づくり』 野村 歡 著	
	この本は子どもの事故や犯罪はいつでもどこかで起きている現状から子どもを守る取り組み、安全対策のポイント、まちづくり、今後の取り組みの課題を解説している。当研究会では、子どもの事故の現状を検証し、年齢、内容から対策を検討した。第 1 章では事故は病気と捉えたと予防対策を講じられる。第 3 章では「乗り越えによる墜落事故」から手すりの高さ、ベランダの足がかりなど法規を満足しても、配慮が足りないため起きた事故について。「すべり・転倒事故」から床材について、階段の蹴込板の問題など、「覗き込みによる事故」については浴槽の高さなど、改めて子どもの事故についての要因や注意を再確認した
●『家族と住まない家 血縁から暮らし縁』 島村八重子・寺田和代 著	
	コレクティブハウス、ルームシェア、高齢者のグループリビング、シェアハウスなどの血縁や婚姻関係を越えた他人との住まい方の事例。“コレクティブハウス~かんかん森”12階建ての多世代住宅。若人と60代の女性がルームシェアし、悩み事も相談している例もある。“松陰コモンズ”は男女7人でシェアして住む古民家を改修した住まい。若い人の中には経済的基盤がもろいことや、変化する家族のために住宅をつくる事への不安がある。家族と一緒に住むことだけが、「住まう」のではなく、ルールを守りながら、血縁でない人々と暮らす方法がいろいろあることを考えさせられた
●『同潤会大塚女子アパートメントハウスが語る』 女性と住まい研究会編	
	旧同潤会大塚女子アパートメントハウスは、平成 15 年所有者であった東京都によって解体された。昭和初期働く女性の生活基盤として計画された住居だけに、建設当初の居住者の暮らし方は自立の意志の強さがうかがえ、家族を固定的にとらえない現代のコレクティブ住宅の住まい方に通じるものが見えてくる。これは東日本大震災後の復興住宅のあり方にも反映されてもいいものだけに、女子アパートという周囲から閉じられた建物であったことが、一般人を巻き込んだ保存運動につながりにくかったことが残念である。夫婦と子供という標準的な核家族だけで住まいを考える時代から、多様な単身居住者の住まいを視野に置く時代に変化する中、見直したい建物であった

5 普及啓発部会 活動記録

□ セミナー企画運営 (神戸市すまいの安心支援センター委託)

■平成 21 年度

「快適！エコも取り入れた家づくり」 ～省エネ・エコを考えた家づくりの現場

開催日 11月28日(土)
会場 すまいるネットセミナールーム
企画運営 女性委員会普及啓発部会
講師 自立循環型住宅研究会
木津田秀雄、澤木久美子
参加人数 15名



「自立循環型住宅研究会」のメンバー講師2名による市民向けセミナーを開催。セミナーでは、「自立循環型住宅」のパンフレットに基づき、日射熱の利用と遮蔽・断熱・冷暖房設備・高効率の家電機器などについて、事例や経験談を交えての話は、「暮らし方、住まい方だけでも省エネが出来る」一般の人でも手がけていける内容だった。

■平成 22 年度

色彩の魔法～すまいのカラーデザインセミナー～

開催日 11月6日(土)
会場 すまいるネットセミナールーム
企画運営 女性委員会普及啓発部会
講師 杉本雅子、矢代恵
グループ 常俊桂子、東影みどり、八木
ワークスタッフ 景子、森澤理恵子、鷺尾真弓
参加人数 31名



前半では、色の見え方や心理効果などの基礎知識とともに、地域・公共空間・すまいなど、とりまく環境における色についてレクチャーを行った。後半は1枚の用紙に書かれたリビングの絵に、グループごとに与えられたテーマで色を塗るワークを行い、相互に発表。自分のイメージを具体化する作業や、他の参加者の思いや考えを聞くことを通じて、色の可能性を感じていただく機会とした。

■平成 23 年度

明かりの工夫でもっと素敵な毎日を！～省エネ時代に快適に住まう照明テクニック～

開催日 11月26日(土)
会場 すまいるネットセミナールーム
企画運営 女性委員会普及啓発部会
講師 長町志穂氏(照明デザイナー)
株式会社 LEM 空間工房代表取締役
参加人数 31名



電球の種類によって、色や照らし方の違いを、実際に電球で照らして、実演で表現。今までの照明の配置が、いかに無駄に空気を照らしていたのか、実感できた。LED電球については、日々進化を続けていて良いものが開発されてくるので、急がずにもう少し待っていたほうが賢明ようだ。

■平成 24 年度

テーマ：

「住まいの緑」再発見！～樹木から観葉植物まで、さまざまな空間での効果的な緑の演出

開催日 10月27日(土)
会場 すまいるネットセミナールーム
企画運営 女性委員会普及啓発部会
講師 藤山 宏氏
(有)造景空間研究所代表取締役
参加人数 20名



庭のトレンドも時代とともに変化しているが、自然樹形の樹木は松などとはメンテナンス方法が異なり、枝抜き作業などによってコンパクトにしていくことが必要で、ちゃんと木々の特性に合った方法で行わなければいけない。また成長のスピードや大きくなってからのメンテナンス方法など樹木の特性を知ることが大事だということなどをお話いただいた。また、小さなスペースの演出やカースペース、ベランダなどでのおすすめ事例などを紹介いただいた。

■平成 25 年度

もうリバウンドしないお片付け ～人と物の動線からわかること～

開催日 11月30日(土)
会場 すまいるネットセミナールーム
企画運営 女性委員会普及啓発部会
講師 大塚典子氏
いたやリビングデザイン 代表
アシスタント 香川康子氏
参加人数 11名



お片付けについての市民対象セミナーを開催。1級家事セラピストの講師から、

1. 「片付けに大切な暮らしの環」について
2. 捨てるための考え方十か条+1
3. 捨てるためのテクニック十か条

について話を聞き、何故捨てられないか、どうしたら捨てられるかを2グループに分かれ意見交換を行った参加型セミナーとなった。

□ 共催セミナー

パネル「循環する木の住まい」展示

開催日 平成22年3月3日(水)～3月10日(水)
会場 伊丹イオンモール



建て替え知らずのマイホームづくり ～住み続けるための知恵と工夫～

開催日 平成22年10月9日(土)23日(土)
 会場 たちばなNPOプラザ(尼崎)
 企画運営 UD建築研究会
 参加人数 30名



すまいにしのび寄るシロアリ被害の現状とその対策ーアメリカン・シロアリの最新情報ー

開催日 平成22年7月3日(土)
 会場 すまいるネットセミナールーム
 企画運営 健康な住まいとくらしを考える会
 講師 京都大学大学院農学研究科
 准教授藤井義久先生
 参加人数 30名



「今こそ省エネ、本気で省エネ」～未来の子供たちのために、今私たちができること～ 建て方の工夫,暮らしの工夫

開催日 平成23年7月2日(土)
 会場 すまいるネットセミナールーム
 企画運営 健康な住まいとくらしを考える会
 講師 澤木久美子氏
 米谷良章氏
 参加人数 25名



誰でもわかる省エネセミナー ～必見！確認申請にかかる省エネ措置の届出克服～

開催日 平成24年3月16日(金)30日(金)4月13日(金)27日(金) 4回連続セミナー
 会場 すまいるネットセミナールーム
 勤労会館 会議室
 企画運営 木構造・木造住宅研究会
 講師 西原 誠助氏
 参加人数 31名

